



四小だより

■よく考え学ぶ子 ■じょうぶでたくましい子 ■心の豊かな子

2月号

令和6年1月31日発行

新座市馬場3-6-1

048(478)3192

当たり前のことに感謝

校長 岡野 信幸

毎年この時季になると校庭の桜の木のつぼみがどうなっているかなと思い、見上げることがあります。今年は暖冬なので、つぼみの膨らみは例年と比べて、少し大きく感じます。寒い日や暖かい日が交互にやってきますが、確実に春に向かっていくように感じます。今年は2月3日が節分で翌4日が立春です。暦の上でも春を迎えようとしているところです。

直近の学校の様子は、インフルエンザに加えて新型コロナウイルスの感染も見られるようになりました。ご家庭におかれましては、引き続きお子さんをはじめご家族の健康状態には十分にお気をつけください。

大谷翔平選手からの贈り物

さて、先日 C4th でお知らせしましたとおり、プロ野球選手の大谷翔平選手から第四小学校にグラブが届きました。第三学期始業式の後に、体育館にて全校の子どもたちにお披露目をしました。そして、代表の子どもによるキャッチボールのデモンストレーションを行いました。1月半ばの週から全学級にグラブを回して、子どもたちに触れさせるようにしています。



このグラブは全国の小学校へと贈られているものです。子どもたちに大きな夢を与えてくれるものでもあります。ですから、ただ飾っておくよりは実際に手にはめてみる、キャッチボールをするなど、子どもたちが楽しいと思ってもらえるようにすることが大切なのだろうと考えています。

能登半島地震のその後

元日に起きた能登半島地震から1か月が経過しました。安否不明者や損傷家屋数など、依然として被害の全容が明らかになっていないのですが、子どもたちが久しぶり

に登校することができるようになった地域もあります。

石川県内では全公立小中学校計281校のうち、65校が1月9日に予定されていた始業日を延期しました。大きな被害を受けた石川県珠洲市や能登町などでは、1月22日になって、ようやく計18の公立小中学校等が再開できました。しかし、輪島市などの学校は依然として再開の見通しが立っていません。

当たり前に登校できる喜び

一方で、新座市では元日に地震の揺れを感じたものの、大きな被害は出ませんでした。1月9日の始業式も、予定どおり実施することができました。また、前述のとおり大谷翔平選手からの贈り物の披露もできました。その後の授業も、普段と変わらず進められています。

私たちはともすると、この何気ない当たり前に生活できることに気づかずにいるのではないかと思います。学習も給食も、友達と笑い合うことも、当たり前の日常が過ごせること、それが一番の幸せなのではないかとも思います。東日本大震災の後に生まれてきた第四小学校の子どもたちには、それができる幸せをぜひ感じてほしいと願っています。



当たり前の日常を取り戻せるように

先日、テレビを見ていると、水道の水が出るようになった地域の様子が流れていました。流れる水に向かってありがとうと手を合わせている御老人の姿を見ました。何ともせつない気持ちになりました。私たちは、水道から当たり前に水が出るということに慣れていますが、普段と変わらずに生活できる喜びを噛み締め、今を大切に生きていかなければならないと思います。



そして、地震の被害に遭われた皆様には、当たり前の日常を取り戻すことができるよう、一日も早い復興を願っております。